



小泉 修一さん(54)

平成21年に日本の学術賞として最も権威のある賞「日本学士院学術奨励賞」を受賞し、後のノーベル賞候補者として注目を集めている。

【略歴】

野沢北高校卒。九州大学院博士課程修了。ヒューマンサイエンス振興財団博士研究員、厚生省、英国ケンブリッジ大学博士研究員、国立医薬品食品衛生研究所薬理学部主任研究官、同室長を経て現職に至る。小泉市長とは中学校の時の同級生、高校の時の同窓生。



山梨大学 大学院総合研究部 医学域
基礎医学系 薬理学講座 (医学部薬理学講座)

教授
基礎医学系長
副医学部長

小泉 修一

対談テーマ

「外から見た小諸」と

市 ケンブリッジ大学時代に何か特筆すべき点はありませんか？

修 ありましたね。当時の指導教授に、あるとんでもない現象を見つけたことがテーマだと言われ研究を始めました。色々文献を調べてもなさそうだし、周りからは絶対無いからやめろと言われたりもしましたが、教授はなぜか自信满满でした。腹をくくって、毎日毎日顕微鏡を覗き続けたところ、いつしか自分の中でも「必ずある」と思えるようになりました。研究を続けていたところ、ある日突然見つけたんです。あれだけ見つけるのが難しかったのに、一旦見つかる、その後は簡単に見つかるのです。まさにコロナブスの卵。大胆だけれど緻密な仮説とそれを証明するためのハードワーク。最初に何かを発見することの真の重要性を叩き込まれたと思います。そのことが、その後の研究者人生の基盤になったと思います。

市 日本の学術賞として最も権威のある賞「日本学士院学術奨励賞」を受賞された中で、教授が日々の研究などで大切にしていることは何ですか？

修 「新規性」と「独創性」ですね。研究者の世界では、今まで常識だと考えられていたものが結構ひっくり返ります。研究・実験の中に真実はあって、フィルター掛け過ぎて見ていると今までのストーリーしか見えてきません。間違えたときとか何かあったときに新しいことがみえてきます。間違えて一人一生懸命頑張った判断しても、見過ごしてしまうこともありますよね。

修 大きな研究は一人ではできません。専門化が進みましたので、それぞれの分野で最先端の技術を持っている人、設備を所有している人と組まなければできないことが多く、その意味では人とのつながりが無いと何もできません。信頼されること、また、助けてあげたいと思われる人になることは大事だと思います。

市 市役所も同じで人とのつながりは欠かせません。最後に小諸の子どもたちにもメッセージをお願いします。

修 我々が子供だった頃の右肩上がりの時代ではないからかもしれませんが、今の子どもたちは、夢は持っているけど、少し現実的すぎるという印象です。君たちは「何にでもなれます！何でもできます！無ければつくればいいんです！」夢を持つと自分の人生が楽しくなるし深まります。そして、先人の知恵を借りることも大切。たまたま、この時代に生きている私たちは、これまでの歴史からすると、まばたきのような一瞬を過ごしているにすぎません。先人が行ってきたことを知り、さらには外の世界に目を向けてほしい。そして最後に、生まれ育った小諸を愛してほしいです。